

2026年5月15日

報道機関 各位

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
株式会社トヨタシステムズ

トヨタシステムズと名古屋大学が産学連携に関する協定を締結 ジョイントラボを設置し、AI・データ活用による社会課題解決と人材育成を推進



国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学(所在地:愛知県名古屋市、総長:杉山直、以下名古屋大学)と、株式会社トヨタシステムズ(本社:愛知県名古屋市、代表取締役社長:北沢宏明、以下トヨタシステムズ)は、AI・データ活用を軸とした社会課題の解決および人材育成を目的として、産学連携に関する協定を締結しました。

本協定のもと、両者は名古屋大学内に共同研究拠点(ジョイントラボ)を設置し、大学の専門的知見とトヨタシステムズの業務・IT 実装力を融合させた実践的な共同研究を推進していきます。

【背景】

AI およびデータ活用の重要性が高まる一方、社会課題や業務課題は複雑化・高度化しており、企業単独での解決が難しくなっています。

トヨタシステムズは、トヨタグループの競争力強化や新たな価値創出に向け、AI・データ活用の実業務適用を推進してきました。名古屋大学は、情報学・工学分野を中心に、社会課題解決に資する研究と人材育成を進めています。

こうした背景のもと、両者は産学連携による知見とリソースの融合を通じて、実践的かつ継続的な研究体制を構築するため、本協定を締結しました。

【本取り組みのポイント】

- ・AI・データ活用による社会課題・業務課題の解決
モビリティ分野を中心に、人流分析・物流シミュレーション・画像／言語処理などの技術を活用し、社会実装を見据えた取り組みを行います。
- ・大学内にジョイントラボを設置した共同研究体制
教員・学生と企業技術者が日常的に議論・検証を行う環境を構築し、スピード感のある研究と実装検討を進めます。
- ・実社会の課題に触れる人材育成の場を創出
学生が実際の業務データや課題に取り組むことで、次世代の高度人材育成につなげます。

Press Release

【取り組み概要】

名古屋大学内に設置したジョイントラボを拠点に、以下のようなテーマに取り組みます。

- ・点群・画像を用いたデジタルツインによる 3D データ活用
- ・行動・人流・物流データ分析、予測、シミュレーション
- ・画像認識、自然言語処理、対話技術の業務適用
- ・AI・量子技術活用による業務改善、生産性向上と人材育成

研究テーマは複数設定し、成果や状況に応じて柔軟に見直し・追加を行いながら推進します。

【今後の展開】

本取り組みは、まず 3 年間の継続を前提として運営し、研究成果の効果や有効性を検証しながら、さらなる展開を検討していく予定です。

両者は本協定を通じて、トヨタグループの業務変革を支援するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【代表コメント】

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 総長 杉山直

大学にとって知を具体的な社会実装へつなげていく役割はかつてないほど重要になっています。

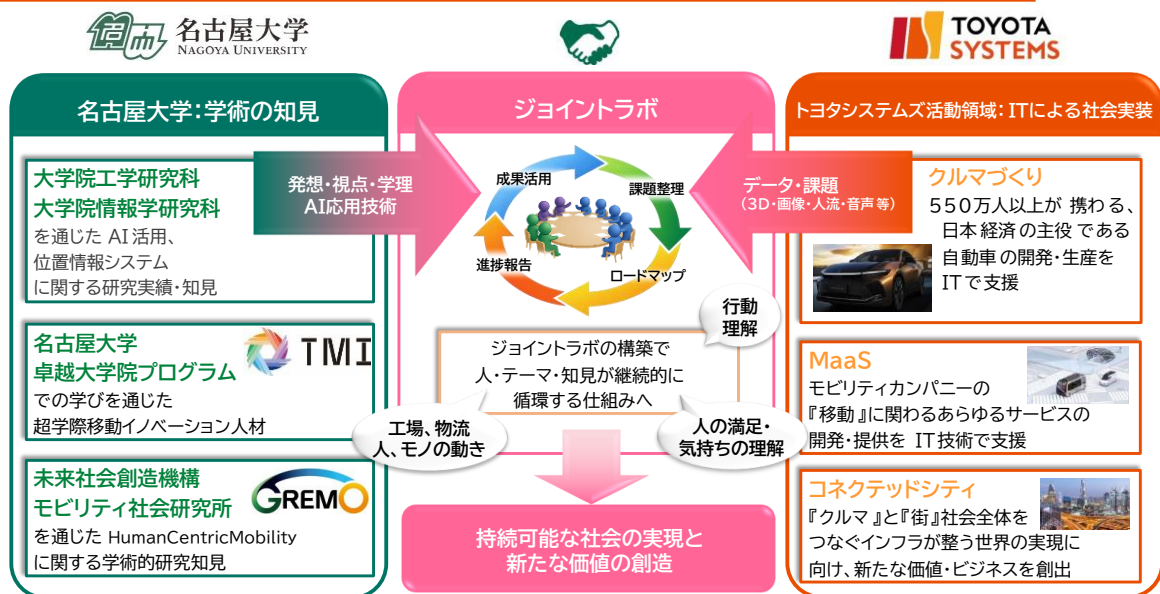
本学とトヨタグループとの連携を進めていく中で、この協定のもとではトヨタシステムズと協力し、単なる共同研究にとどまらず人材育成をも見据えて、企業研究者がオンキャンパスで大学教員や学生とともに研究を推進する計画をしています。組織対組織、企業との間の壁を取り払った“面”での産学連携の体制で持続可能な社会の実現と新たな価値を創造していきたいと考えています。

株式会社トヨタシステムズ 代表取締役社長 北沢宏明

AI はそれ自体が目的ではなく、現場の課題や実データを起点に、どう活用していくかが重要だと考えています。トヨタシステムズは、業務を通じて得られる課題認識や実データを持ち寄り、その背景を含めて議論できる立場にあります。

本連携では、社員と研究者・学生が日常的に対話する場としてジョイントラボを設け、立場や専門性の違いを越えた“すりあわせ”から新たな視点や発想が生まれ、価値創出と人材育成の両立につながることを期待しております。

名古屋大学とトヨタシステムズとの産学連携に関する協定



以上

問い合わせ先

名古屋大学研究協力部産学官連携課 大塚
TEL :052-789-5545
Email:k-sangakukan@aip.nagoya-u.ac.jp

株式会社トヨタシステムズ総務部 広報ブランディング G
TEL :052-747-7111
Email:ts-pr@ml.toyotasystems.com